

病害虫発生予察情報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

4月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	トリコデルマ、リゾプス、フザリウムによる苗立枯病	やや多い	—	果樹	リンゴのリンゴゴブアブラムシ	少ない	やや早い
	ピシウムによる苗立枯病	やや少ない	—		リンゴのカイガラムシ類	並	やや早い
	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害	やや多い	—		ニホンナシの黒星病	少ない	やや早い
	褐条病による苗立枯性病害	やや多い	—		ニホンナシのカイガラムシ類	多い	やや早い
	ばか苗病	並	—		ニホンナシのニセナシサビダニ	少ない	やや早い
大麦	雲形病	少ない	—		ニホンナシのハマキムシ類	並	やや早い
	うどんこ病	並	—		ブドウの黒とう病	少ない	やや早い
	赤かび病	並	やや早い		ブドウの晩腐病	やや多い	やや早い
野菜	タマネギのべと病	並	—		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	少ない	やや早い
果樹	リンゴの黒星病	少ない	やや早い		モモのせん孔細菌病	やや少ない	やや早い
	リンゴの褐斑病	やや多い	やや早い	モモのカイガラムシ類	やや多い	やや早い	
	リンゴのうどんこ病	少ない	やや早い	花き 球根	チューリップの褐色斑点病	やや多い	早い
	リンゴのハダニ類	やや多い	やや早い		チューリップのモザイク病	並	—
			チューリップのアブラムシ類		やや多い	早い	

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

I 水 稲

1 トリコデルマ、リゾプス、フザリウムによる苗立枯病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
- ・ 防除指針（令和4年度）：16～17 ページ参照

2 ピシウムによる苗立枯病

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
- ・ 防除指針（令和4年度）：17～18 ページ参照

3 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・ 種子消毒を徹底する。
- ・ 温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・ 出芽期、緑化期の温度は30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
- ・ 有機物含量の高い軽量培土を使用することにより発病を抑制できる。
- ・ 防除指針（令和4年度）：11～19 ページ参照

4 褐条病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・種子消毒を徹底する。
- ・温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・出芽期、緑化期の温度は30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
- ・防除指針（令和4年度）：11～19 ページ参照

5 ばか苗病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・前年の育苗障害調査では、発生箇所率が6.7%で平年(8.9%)並であった。

- (3) 防除対策

- ・種子消毒を徹底する。
- ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、生物農薬の併用で防除効果を高める。
- ・防除指針（令和4年度）：11～15 ページ参照

II 大 麦

1 雲形病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・近年の発病が少なく、種子の保菌程度が低いと予想される。

- (3) 防除対策

- ・排水対策を徹底する。
- ・防除指針（令和4年度）：50ページ参照

2 うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・3月10日調査の発病度は0.0で平年(0.1)並であった。

- (3) 防除対策
・防除指針（令和4年度）：49ページ参照

3 赤かび病

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
・4月の降水量は平年並と予想されている。
【早発要因】
・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・降雨が続く場合でも雨の晴れ間をみて適期防除を行う。
・防除指針（令和4年度）：50ページ参照

Ⅲ 野菜

1 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
・前年10～12月の気温は11.6℃で平年(11.3℃)並に推移した。
- (3) 防除対策
・排水対策を徹底する。
・防除指針（令和4年度）：103ページ参照

Ⅳ 果樹

1 リンゴの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
【少発要因】
・前年の発生量は少なかった。
【早発要因】
・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・開花直前及び落花直後は重要防除時期なので、適期に防除を実施する。
なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月23日、開花盛期は4月27日である。
・感染は低温や降雨により助長されるので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
・防除指針（令和4年度）：139、142～143、147～148 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・病原菌は落葉上で越冬し、春以降、落葉上から子のう胞子が飛散することから、前年に発生が多かった園地では、被害落葉をほ場外に持ち出すか乗用草刈機で粉碎するなど、落葉処理を徹底する。
- ・薬剤の到達性を高めるため、混み合った枝や薬剤がとどきにくい徒長枝などはせん除する。
- ・防除指針（令和4年度）：139、141～143、147～148ページ参照

3 リンゴのうどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・被害枝、花そう、葉は見つけ次第せん除する。
- ・開花期前後～落花20日後頃は重要防除時期なので、適期に防除を確実に実施する。
- ・防除指針（令和4年度）：139、142～143、147～148 ページ参照

4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・マシン油乳剤による防除は、展葉期（発芽後2週間まで）の時期を逸しないよう注意する。
なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽期は3月24日である。
- ・越冬密度を下げるため、粗皮削りを行う。

- ・防除指針（令和4年度）：139、141、144、146～147、149 ページ参照

5 リンゴのリンゴコブアブラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・前年のアブラムシ類の発生量は少なかった。
 - 【早発要因】
 - ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・発生の多い園地では、ウララ DF を散布する。
 - ・防除指針（令和4年度）：139、145、148～149 ページ参照

6 リンゴのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は平年並であった。
 - 【早発要因】
 - ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・発生の多い園地では、発芽前にスプレーオイル 50 倍を散布する。
 - ・防除指針（令和4年度）：139、145～146、148～149 ページ参照

7 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・前年の発生量は少なかった。
 - ・前年の秋型病斑葉率は低かった。
 - 【早発要因】
 - ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・園内に残っている落葉は伝染源となるので、落葉処理（園外での処分、乗用草刈機による粉碎、ロータリによるすき込み等）を徹底する。
なお、落葉処理は子のう胞子の飛散が始まる前の3月中旬までに完了する。
 - ・芽基部病斑は見つけ次第、基部から切除し、園外で処分する。
 - ・開花直前及び落花直後は最重要防除時期なので、適期に防除を行うとともに薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月17日、開花盛

期は4月19日である。

- ・品種や園地によって開花ステージが大きく異なるような場合は、それぞれの品種や園地の開花ステージに合わせて防除を実施する。
- ・防除指針（令和4年度）：150、152～155、158 ページ参照

8 ニホンナシのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量は多かった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・発生園では、暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
- ・多発樹では、発芽前のスプレーオイル散布前に粗皮削りを行う
- ・防除指針（令和4年度）：150、152、155～156、159～160 ページ参照

9 ニホンナシのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・越冬密度を下げるため粗皮削りを行う。
- ・前年に発生が多かった園地では、粗皮削りを行うとともに、休眠期にクムラス（300倍）を散布するか、発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
なお、クムラスを散布した園地は、マシン油乳剤を散布しなくてもよい。
- ・防除指針（令和4年度）：150、152、157、159～160ページ参照

10 ニホンナシのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**並**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・防除適期はりんぼう脱落期である。防除が遅れると花蕾の食害が発生するので、

- 生育状況を確認し、りんぼう脱落期には確実に防除を実施する。
- ・防除指針（令和4年度）：150、155～156、159～160 ページ参照

1 1 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・前年の発生量は少なかった。
- 【早発要因】
- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部（前年のなり跡部）は除去し、ほ場外に持ち出す。
 - ・発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。
なお、果樹研究センターにおける平年の露地栽培「巨峰」の発芽期は4月15日である。
 - ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、発芽前防除をベンレート水和剤からデランフロアブル（200倍）に替え散布する。
 - ・「シャインマスカット」は本病にり病しやすいため、防除を確実に実施する。
 - ・防除指針（令和4年度）：161、163～165ページ参照

1 2 ブドウの晩腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・前年の発生量はやや多かった。
- 【早発要因】
- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・被害枝、棚線に残っている巻きづるや穂軸基部（前年のなり跡部）を除去し、ほ場外に持ち出す。
 - ・発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。
なお、果樹研究センターにおける平年の露地栽培「巨峰」の発芽期は4月15日である。
 - ・防除指針（令和4年度）：161、163～165ページ参照

1 3 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、粗皮削りを行うとともに、発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。ただし、4月上旬（発芽前）に散布するホーマイコートとの近接散布にならないように注意する。また、4月下旬にアプロード水和剤（1,000倍）を散布する。
- ・発芽前～発芽期にスタークル顆粒水和剤の樹幹塗布を実施する。
- ・防除指針（令和4年度）：167～168、170～171ページ参照

14 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量はやや少なかった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では防風対策を行う。
- ・被害枝や春型枝病斑は見つけ次第せん除する。
- ・4月は初期の予防に重要な時期なので、開花直前防除以降、散布間隔を開けすぎないように注意する。
なお、果樹研究センターにおける平年の「あかつき」の開花始期は4月10日、開花盛期は4月13日である。
- ・防除指針（令和4年度）：172、174、176ページ参照

15 モモのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、粗皮削りを行うとともに、発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
- ・防除指針（令和4年度）：172～174、176ページ参照

V 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・3～5月の気温は高いと予想されている。
【早発要因】
・生育が平年より早く、3月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・萌芽期から発病株を抜き取り、殺菌剤の定期散布により予防・防除する。
・防除指針（令和4年度）：190 ページ参照

2 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
・前年のアブラムシ類の飛来量は並であった。
- (3) 防除対策
・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
・防除指針（令和4年度）：191 ページ参照

3 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・4月の気温は平年並か高いと予想されている。
【早発要因】
・冬季の積雪日数が少なく、3月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病発病株の抜き取りを徹底する。
・防除指針（令和4年度）：191 ページ参照

～農薬危害防止～

- 1 農薬の保管は適切に→必ずカギがかかるようにする
- 2 周辺への配慮を→散布前の事前周知と農薬の飛散防止に努める
- 3 防護装備を正しく着用→マスク、保護メガネ、防除衣を着用

北陸地方 3か月予報
 (予報期間 3月から5月)

2月21日
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

3月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並の確率40%です。

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

項目	地域	期間	確率 (%)		
			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	北陸地方	03月~05月	20	30	50
		03月	20	40	40
		04月	20	40	40
		05月	20	40	40
降水量	北陸地方	03月~05月	30	40	30
		03月	30	40	30
		04月	30	40	30
		05月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)